



認知症介護実践リーダー研修 2025

職場内教育(OJT)の実践

社会福祉法人麦の家
田中美保子

本日の講義のテーマ

これまでに学んだ認知症ケアに関する具体的な場面において
どのように活用していけばよいのかを理解する。
アセスメントにも注目していきます。

視点・観察・気づき・共に悩む

援助者が援助者としての

自己覚知



援助者であるワーカー自身が自分の感じ方、考え方の傾向、
知識や技量について意識化し、自ら把握しておくこと。

前講義の「認知症ケアの倫理」のケアの事例を思い出してください

事例

利用者Fさんは荷物をまとめて玄関に向かって「帰ります」と話し、歩かれることも見られはじめてきていた。そんな状況になり始めた頃、職員Aさんはリーダーに以下の相談をしました。

「Fさんが荷物をまとめて玄関まで行ってしまう時対応が上手くできず悩んでいるんです。」

「他の仕事が全然できないから、Fさんを隔離した方がいいのではないのでしょうか。」

「何か薬を処方してもらって落ち着いてもらえないのでしょうか。」



この事例から、
ワークシートに記入をしてみます。

演習：ワークシートの記入（ 10 分）

できるだけ①②③全ての項目に書き込んでみましょう

	理解しているな 知識があるな よくできてるな	解らないんだらうな こまっているんだらう それできないんだ	知識・技術・価値から高められる どの様に伝える一緒に考える 具体的に支援する 内容・方法・組み立て
① 認知症ケア の 知識	・・・の部分から 〇〇の知識が ある。等	事例の・・・の部 分から〇〇の知識 がなくてわからな いんだらう 等	⇒〇〇の知識がつくように具 体的に〇〇をしながら考える。 等
② アセスメント 能力	・・・の部分から 〇〇のアセスメ ントできるな。 等	事例の・・・の部 分から〇〇のアセ スメントで来てない んだらうな 等	⇒〇〇のアセスメント能力が つくように具体的に〇〇をし ながら考える。 等
③ 介護方法	・・・の部分から 〇〇の介護が すごくいい。等	事例の・・・の部 分から〇〇の介護 ができないんだら うな。等	⇒〇〇の介護方法がわかる ように具体的に〇〇をしなが ら考える。 等

演習1 

演習シート記入(説明)後

○個人ワーク(10分)

事例から自分が考えることを記入



○グループワーク(10分)

* グループの皆さんに報告しながら、
自分の気づかなかった部分を知りましょう

リーダーとして

一緒に考えたいこと 考えておきたいこと

視点①

共感的理解の視点を振り返る

— 援助者としての私 —

⋮

認知症ケアの指導の基本視点を考えるにあたり・・・認知症の人への共感的理解を考える

- ・私たちがケアする中では、認知症の人への**共感的理解**は必要不可欠です。
- ・この講義の**目的**: 認知症の人への心情・心理や心理的ニーズへの理解を深める中において“ちょっとした気づき”を得てケアの視野に広げる。
- ・認知症の人の心情・心理を共感的に理解し「人 としての心の欲求」に配慮できるチームづくりを目指す。
- ・認知症の人の「可能性」を理解し、良いところを生かし「人生の再構築」に寄与することへの重要性を考える。

認知症の人を支援するにあたり、

高齢者（人）を理解する・・・

- * マズローの欲求5段階説
- * 人間の成長をE・エリクソンの8つの漸成的段階から見る高齢者の心理社会的内容
- * **ワーカー＝クライアント関係の本質を形成する**
バイスティックの7原則
- * **人間の心を理解する適応**と防衛機制(心的機制)

“思考を展開し視野を広げていく上で、私たち支援者が学びを深めていきたいこと。

ライフサイクル・モデル

皆さんが「今」
関わっているこ
こに注目！

時 期	年齢の目安	危機的な主題
第1段階 乳児期	0～2歳	「基本的信頼」の獲得。人を自分を信じられるか。
第2段階 幼児期	2～4歳	「自律性」を身に着ける事。セルフ・コントロール
第3段階 児童期	4～7歳	「自主性」積極性、主体性、目的性をはぐくむ事
第4段階 学童期	7～12歳	「勤勉性」の基礎づくり。友達との様々な共有経験
第5段階 思春期・青年期	13～22歳	「アイデンティティ」の形成。自分を見出せるか。
第6段階 成人期	23～35歳	「親密性」を持つこと。家族や同僚との結びつき
第7段階 壮年期	36～55歳	「世代性」を生きる事。引継ぎと引き渡し。
第8段階 老年期 (絶望×統合)	56歳～	「人生の統合」人生に意味を感じられるか。

第8段階「老年期」

- この時期に克服が必要とされている課題

「統合性VS絶望」

- この時期に必要とされる“重要な出会い”

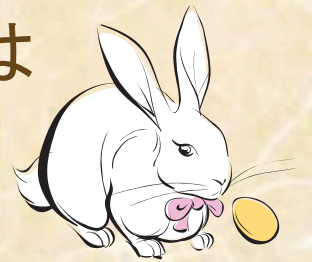
「自分の人生の聴き手との出会い」

“聴き手”である私達に大切な事は？

- “**自己を肯定**する心を育む”

……というが。

- 聴く側の私達が根底に置く姿勢は
なんだろうか？



皆さんが考える“聴く”について考えてみましょう。

＊ 皆さんが考える「**聴く**」という意味について
一人一人考えてみてください。

- 何を持って「**聴く**」なのか。
- 聴くために必要と思われる姿勢は？
- 普段の「**聴く**」というスタンスから、専門職としての「**聴く**」のスタンスの違いは何か？

皆さんはどんな”きき方“ですか？

- **聞く**：音・声を耳に受ける。

聞こうと思っていなくても耳に入ってくるというときに使う。

- **聴く**：注意して耳に止める。耳を傾ける
もっと意識して「きく」ことです。理解しようと思って聞くと、

- **訊く**：尋ねる、問う
質問したり、問いただしたりして尋ねる

原則4：受け止める

：バイスティックの7原則から

- クライアントを受け止めるという行為とは？例えば、理解する、敬意をはらうこと、愛すること、把握すること認識すること、迎える等。

3つの段階に分けて整理すると・・・。

- ① **感知する事**—受け止めつつあるものを客観的に見める
- ② **援助を目的として理解すること**—如何なる原因が響を及ぼしているのか、またその原因がどのような意味を持っているのか、更に、目標を何処におくのかという観点からクライアントを受け止める。
- ③ クライアントが持つ現実を**多様な角度**から適切に識する。

私たち聴き手の重要性

- 老年期を迎える人々に対する「肯定的に受け止められる環境の場の提供」……つまりは身体的支援の場としてではなく、“自分の人生の聴き手との出会い”
- 自ら生きてきた人生が「これで良かったんだ」と思えるか？否か？は自分の人生の聴き手との出会いによっても大きく左右されると言っても過言ではないのでしょうか。

専門職としての自分を振り返る

認知症の人に「語りだし」を引き出し支えるために。

- 「話したい人」として認められる**存在ですか？**
本人の力や可能性を感じていく
発言の背景にある思いを知る
- その人の人生や楽しいこと嬉しいことを知る**存在となっていますか？**
- 3つの視点から話しやすい状況を**探る力がありますか？**
認知機能障害（小池先生の講義の時に学びましたね。）
心理的防衛機制（次のスライドで示しますね。）
心情（ここで感じ、思っていること。ある**物事**に接したときのここちの中のおもい）
- **羞恥心に配慮する存在ですか？**
恥ずかしいと感じる気持ちのことである。つまり恥を感じている気持ち
- 本人のつらい気持ちや不安を家族に理解してもらうために**力を尽くしていますか？**

認知症を生きるということ

認知症、なかでもアルツハイマー病は、症状が時間と共に進行し、そして決して戻る事がなく(不可逆性)悪化していきます。

そのような病気を持って生きるという事は、あたかも「人間の発達段階の逆行」するかのようで大変つらい経験と言えます。

・(中略)・①記憶力・認知機能の低下や他の知的能力を失うことに対する不安②自己認識(アイデンティティ)及び自己コントロールを失う事への不安③身体的機能低下や苦痛に関する不安といった“失うことへの不安”と常に向き合っていかなければならなくなります。

私たちは、彼らのこのような不安を少しでも和らげることが出来るような配慮と「彼らと共に在る(ある)という姿勢を大切にしたいと考えています。

認知症ケアの倫理 箕岡真子(2010)

防衛機制(心的機制)

抑圧	私達自身の苦痛や不快を感じさせる事を無意識の中に押し込める能力
投影	投影という防衛機制をもって、私達は自分の感じていることを他の人や物に移行させます。
反動形成	特に無意識の中にある感情や心の傾向が全く正反対の形で、意識されて生活に現れる。
固着	ある時期の状態に逆戻りするのではなく、幼少期を特徴づける心的特徴を持って固着すること
退行	まへの欲求、願望、希望に戻ること。ある時期の状態に逆戻りする事。
隔離	感情を出来事や人から引き離す心的能力
合理化	私達がするあらゆる論理的理由で、正当化する事。
感情転移	自分の成長過程における重要な意味を持った人との感情体験を自分の感情を他に向けます。その向け方が不健全であること。(逆感情転移)
昇華	人間が持っている基本的な人間欲求を積極的に社会の為に役立てようとする能力
代償	感情を中和させる、逆の方向へ繰り返し向けることによって中和させること。
同一視	他の人のものを自分のうちに取り入れていく。模倣する心的能力
取り消し	過去の体験を特定の行為を持って取り消す、しなかったことにする。

復習



7月18日中澤先生のスーパービジョンの
講義演習を覚えていますか？

“逆感情転移”

をビデオ演習から考える

(パートナーの気持ちを理解し気づきを促す)



memo



では、皆さんの
計画・実行シートを出してみてください

OJTトレーナー（スーパーバイザー） の気持ち

関わりの中であなたが考えること・気づき



計画・実行シート

令和7年度認知症介護実践リーダー研修職場実習 計画・実行シート（1～2週目）

実習期間	年 月 日 ～ 年 月 日	受講番号	
事業所名		氏 名	
実習協力者の概要	この部分です！		
OJTトレーナーとしての自己課題			
全体目標			
第1週目標			
第2週目標			
月／日	実習協力者の言動と気づき	OJTトレーナーの 関わり・言動	OJTトレーナーの気づき、 発見、考察、助言の意味
		※できるだけ 発言などを、そ のまま記録し てください	

皆さんが実習でパートナーさんとのかかわりを記録してきます。

例

実習協力者の言動と
気づき
(高村ワーカー)

OJTトレーナーの関
わり・言動
(宮原SV)

OJTトレーナーの気づき・発見・考察・言動・
助言の意味
(宮原SVが考えたこと・思ったこと)

10月1日
午後1時
面会室

私。思ったんですけどもしかしたら原因は・・・柳本さんがあんまりにもご家族からないがしろにされているような気がして、面会に来ない息子さんを非難したようなことを言ってしまったんです。柳本さんに、ついワーカーとしては言っではいけないことだったって。

誰だって失敗があるもの。でも、どうして高村さんはそこまで腹立たしく思ったの。

それは多分、柳本さんが母の姿と重なってしまっ

あなたのお母さんと。

ええ。背格好もそうなんですけど、なんとなく喋り方とか似てるんですよ。すぐ上に、私兄がいるんですけど、この兄が忙しい、忙しいって言って、一人暮らしの母のことを全然気にしないんですよ。優しくない兄なんです。」

なるほどねそれを聞いて高村さんが柳本さんのご家族のことを腹立たしく思う気持ちわかったような気がするわ。

私間違ってますよね。

ええ。間違っていないわ。

実習ではこの部分も
大事に！
あなた自身の、
関わり方の傾向や癖な
どにも気づき、課題も
見えてきます。



リーダーとして

一緒に考えたいこと 考えておきたいこと

視点②

ICF・アセスメントに注目して

田中のアセスメントの視点ークライアントを理解するために

アセスメントについて、以前、中澤先生の講義のお話の中で、田中はこの言葉がとても印象に残っています。

『その人の思いをちゃんと中心に置くこと。(知識・チェックとして求めている駄目)理解は出来ても気持ちの中には取り入れることは出来ない。』

私はこの事例を読んで、先ず、クライアントの悲しみ、不安、苦しみ、怖さ、辛さ・・・等の感情を感じ受け止めました。この感情からアセスメントによって喜び、嬉しさ、安心・・・の感情を持ち、ストレングスを高めるケアをしたいと考えました。いつでも、どんなときでも私達は、クライアントの今、瞬間、瞬間を受け止めて、時とともに変化するクライアントの想いを大切に理解し、共感し、実践していきたいと思うのです。

『アセスメントをする際、最も大切な情報は、ニーズや関心とその状況についてのクライアントの認知と感情である。クライアントの話を深く傾聴する事によって、クライアントを尊重していることを伝え、クライアントが自分の歴史の専門家であることを認識することになる。クライアントが話をする情報は、非言語コミュニケーションを含めて大切な情報となる。』この言葉を心に留めています。

『ジェネラリストソーシャルワーク』LCジョンソンSJヤンカ・山辺朗子・岩間伸之訳 ミネルバ書店

理解しようと努める視点

ー傾聴するがごとくこのケースを受け止めるー

相手の気持ちをじっくり聴いて伝えるのではなく伝わってこないと・・・認知症の方は感情で理解(偏桃体)覚えていますか？)

傾聴＝相手の話を聞き取る

受け止める⇒受容

●認知症の人にとって、

『本当にわかってくれる人がいる』

『あなたがいてくれて嬉しい』

は、言葉では表現できないこともある。その代わりに穏やかな笑みを浮かべ、こちらの手を触れ、温かい視線をよせてくれるその人と人とのかかわりが伝わってくるそのような状況にあるとき展開されているスキルは共鳴である。



ICFの考え方は、**人が生きること全体の姿を生活機能と捉え、本人の残された能力の増大を図る**というものです。生活機能には、食べる、寝る、歩くなどの基本的な動作だけではなく、学校や職場などの社会的な環境や人間関係なども含まれます

小池先生の講義では、認知症の疾患の部分からのアセスメントの学びをしたと思います。

田中の講義では、この部分からのアセスメントを考えたいと思います。

健康状態

疾病、ケガ、ストレス、妊娠など

生活機能

生命レベル

生活レベル

人生レベル

心身機能
身体構造

心・体の動き、体の部分

活動

生活行為

【している活動／できる活動】

参加

社会との関わり、
家庭内の役割、仕事など

背景因子

促進因子

阻害因子

環境因子

物的環境、人的環境、
社会的環境(制度・サービス)

個性の尊重 その人固有

個人因子

年齢、性別、
ライフスタイル、**価値観**など

松谷先生の講義では制度・認知症基本法などの部分も触れましたね。

価値観も人生に大きく影響します。含めて話します。



事例をICFの視点(参加: Participation)から更に補助的に加えて、アセスメントしました。

	第1部:生活機能と障 害		第2部:背景因子	
構成要素	心身機能 身体構造	活動・参加	環境因子	個人因子
領域	身体構造の変化(解剖学的)	生活・人生領域 (課題・行為)	生活機能と障害への外的影響	生活機能と障害への内的影響
構	身体構造の変化 (解剖学的)	能力 標準的環境における課題の遂行 実行状況 現在の環境における課題の遂行	物的環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境の特徴が持つ促進的あるいは疎外的な影響力	個人的な特徴への影響
肯定的 側面	機能的・構造的・統合性	活動・参加	促進因子	非該当
	生活機能			
否定的 側面	機能障害 (構造障害含む)	活動制限 参加制約	阻害因子	非該当
	障 害			

ICFの参加(生活・人生領域)の部分に注目し、アセスメントしますよ。

ICFの定義参加 (Participation)とは、 生活・人生場面 (life situation) への関わりの視点です。

①学習と知識の応用

注意して視ること・注意して聞くこと・その他の目的のある感覚、思考、模倣、反復、読む事の学習、書くことの学習、計算の学習、技能の学習、簡単な道具を使う事を覚える、単純な問題解決、複雑な問題解決、意思決定、学習と知識の応用など。

→Aさんは注意して聞くこと・過去の出来事や思い、意思決定として自分の意向を伝える事が出来たか等

②一般的な課題と要求

単一課題の遂行、複数課題の遂行、日課の遂行、日課の管理、自分の活動レベルの管理、ストレスとその他の心理的欲求への対処、危機への対応、一般的な課題と要求

→Aさんの日課・生活のリズム・心理的なストレスや対処など

③コミュニケーション

話し言葉の理解、非言語メッセージの理解、ジェスチャーの理解、絵や写真の理解、公式手話によるメッセージの理解、書き言葉によるメッセージの理解、話すこと、文章を生み出すこと、非言語メッセージの表出、会話、ディスカッション、コミュニケーション用具及び技法の利用など。

→Aさんに対して、発語として促さないと会話にならない、本人のペースでの会話、目線を併せる、目線の高さ、アイコンタクト、声掛けの多さなど

④運動・移動

基本的な姿勢の交換、姿勢の保持、乗り降り、徘徊、持ち上げること運ぶこと、下肢を使って物を動かすこと、細やかな手の使用、手と腕の使用、歩行、移動、様々な場所での移動、用具を用いての移動など

→Aさんの離床時間の確保・抑制しない工夫、行動の把握、二人介助？など

生活・人生場面での関わりの視点その2

⑤セルフケア

自分で体を洗う事、身体各部の手入れ、排泄、飲む事、健康に注意する事、その他のセルフケアなど

→Aさん自身が、自分で体を洗う、適切な衣服の選択、入浴前のトイレ、体重など

⑥家庭生活

住居の確保、家具調度品の確保、住居の手入れ、物品とサービスの手入れ、必需品の入手、調理、調理以外の家事、家庭用品の管理、他者への援助など。

→居心地の良い空間、馴染みのある物品など

⑦対人援助

基本的な対人関係、複雑な対人関係、社会的ルールに従った対人関係、社会的距離の維持、一般的な対人関係、公的な関係、非公式な社会関係、家族関係、親密な関係など

→ケア実践者とAさんとの関係、(馴染み、積み重ね)、他者への敬意、倫理的な配慮など

⑧主要な社会領域

非公式な教育、無報酬な仕事、個人及びグループでの必要な仕事、ボランティア活動、現在の役割を見つける、過去からの継続した役割を維持する、奉仕労働、基本的な経済的取引と経済的時給など

→Aさんと共に共有する事、手伝うという行為など

⑨コミュニティライフ

コミュニティライフ、リクリエーションとレジャー、宗教とスピリチュアリティ、人権、政治活動と市民権など

→Aさんにとってのリラクゼーション・毎日している宗教は？など

環境因子 (environmental factors) と個人因子 (personal factors)

●環境因子

①生産品と用具

⇒個人的な屋内外の移動の為の生産品としての用具(車いすや歩行器等)

②自然環境と人間がもたらした環境変化

⇒気温として(高い? 低い? 温度設定は?) 湿度は? 排泄物の臭い、トイレの臭い、空調の風は? 等

③支援と関係

⇒家族の介護に対する態度、介護職としての態度や関わり等

⑤サービス・制度・政策

⇒個人情報保護法、虐待防止法、感染予防等

●個人因子

クライアントの、性別、年齢、体力

ライフスタイル(人生観、価値観、アイデンティティ)

成育歴、社会的背景(過去及び現在における社会とのつながり)、職業、過去及び現在の人生の大きな出来事、配偶者及び大切な人々との出会いや別れ、入院または入所までの経過(どのような事がきっかけ?) など

*** 私達は一人の人生の物語に注目して様々な視点からアセスメントする事が大切です。**

...一人一人の自己実現を支援する...



「自分以外の人格をケアするには、私はその人とその人の世界を、まるで自分がその人になったかのように理解できなければならない。その人の目でもって見てとることができなければならない。相手の世界で相手の気持ちになることができない。その人にとって人生とは何なのか、その人は何になろうと努力しているのか、成長するためにはその人は何を必要としているのかなどをその人の“内面”から感じとるために、その人の世界へ“入り込んで”いくわけである。」

「一人の人格をケアするという事は最も深い意味でその人が成長する事自己実現をすることを助けることである。」

ミルトン・メイヤロ (ケアの本質)

本日の事例の学びから、午後のOJTの方法の理解へ 送る言葉

コトバの一つひとつに意味がある。会話中は相手の話題を展開せず、一つの話題＝事柄を深めていく。面接＝インタビュー（内に入って観る）。面接するものと、される者が「互いに観られている」ことを意味する。自分が袴（かみしも）をぬぐ、殻を破って、率直にならなければ、相手の率直な思いや考えに向きあうことはできない。自分にとって、思いがけないコトバや感情に直面することができない。

Muginoie(松本)2023.3.26

クライアント(職員)の理解に力を尽くせますように。

実習の検討を祈ります。

引用・参考文献

箕岡真子・稲葉一人:高齢者ケアにおける介護倫理(2015)

箕岡真子:認知症ケアの倫理(2010)

大谷佳子:対人援助のスキル図鑑(2022)

鶴若麻里・那須真弓:認知症ケアと日常倫理(2023)

認知症介護研修テキスト」実践リーダー編